

三番瀬漁場再生検討委員会の検討状況について

平成 20 年 6 月 13 日
 農林水産部水産局 水産課
 農林水産部水産局 漁業資源課

1 会議の開催状況

平成 16 年 12 月 24 日の設置から現在まで、合計 12 回の会議を開催し、三番瀬の漁場再生の目標について審議・決定するとともに、この目標の実現に向けて、三番瀬漁場再生事業をはじめ、各種の事業を実施しています。

また、これらの事業の中で、アオサ対策と停滞している潮の流れの改善について、特に重点的に取り組んでいくこととしています。

三番瀬の漁場再生の目標の策定（平成 17 年 7 月 4 日策定）

（1）当面の目標：

現在の地形となった後、現在の主要魚種であるノリ養殖業、アサリ漁業が、ある程度安定した生産をあげていた 1985 年頃（昭和 60 年代）の漁業生産が見込める「三番瀬の漁場再生」

（2）長期的な目標：

埋立て等の開発行為が行われる以前の 1960 年代（昭和 35 年頃）における重要な水産物であったハマグリなどの貝類や、クルマエビ、シバエビ、ワタリガニなどの甲殻類、コハダ、クロダイ、アナゴなどの魚類が豊富に生息する「三番瀬の漁場再生」

三番瀬漁場再生事業の展開方向

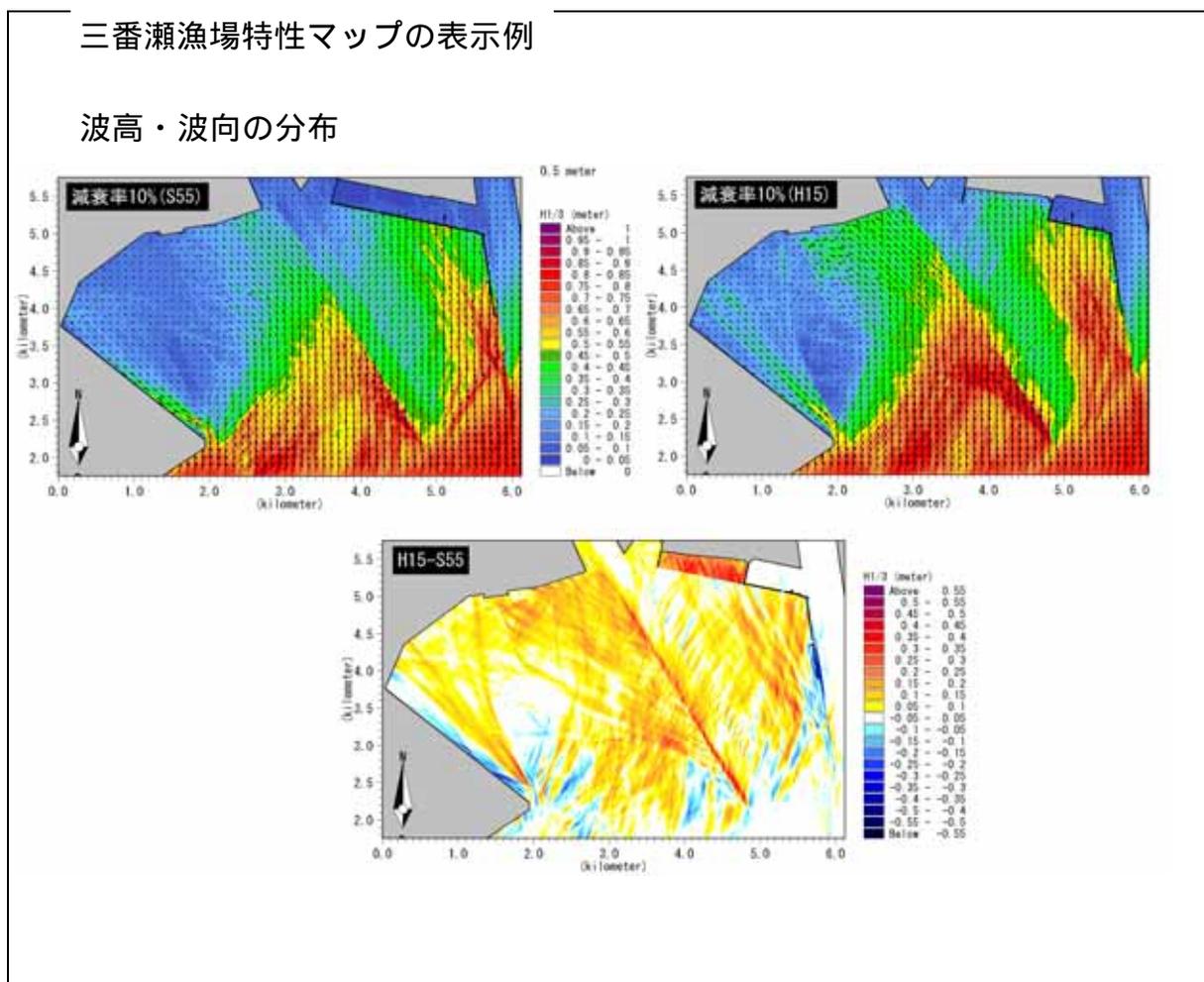
長期的 取組み 基本的な漁場再生 に向けて展開すべ き方向	漁場環境 の改善	流れづくり	漁場特性を整理した「漁場特性マップ」づくりと、干潟や澁も含めた流れづくりに向けた検討
		青潮対策	青潮被害軽減のための検討
		江戸川出水対策	漁業への影響軽減対策の検討
短期的 （当面の） 取組み 漁業生産を安定・ 向上させて展開す べき方向	漁業技術 による対 応	（緊急的課題） アオサ対策	アオサ回収システムの実用化 有効利用・処理策の検討
		藻場造成	漁業者と連携したアマモ場づくりの展開
			アサリ漁業
		ノリ養殖業	品種改良、疾病対策、良質な種づくり、製品の高度化

 : 三番瀬漁場再生検討委員会での重点検討項目

2 潮の流れの改善方策の検討について（漁場特性マップの作成）

三番瀬の漁場環境は、海域の減少や流れの停滞など、不安定な状況にあり、漁場としての生産力が低下しています。

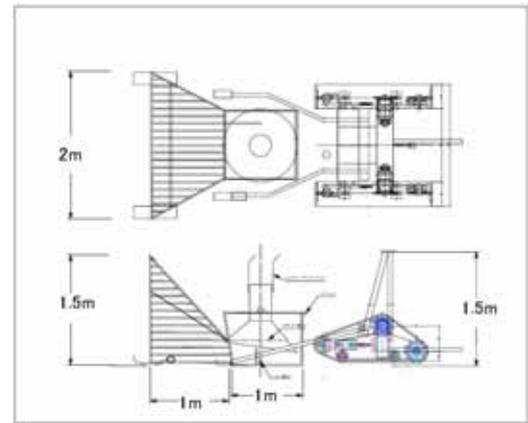
そこで、「漁業者の経験的知見」や「これまでの調査で蓄積された科学的な知見」を基に、三番瀬の漁場特性を整理した『漁場特性マップ』を平成18年から19年にかけて作成、今後は、漁場特性マップを利用し、潮の流れの改善も含めて、漁場再生改善策の検討を行うこととしています。



3 アオサ対策について

大量に発生したアオサは堆積・腐敗して、三番瀬の漁場環境に悪影響を及ぼすことから、アオサを効率的に回収する方法を早急に確立する必要があるため、漁業者と連携してアオサの発生量を継続的に把握するとともに、発生量に応じた回収を行なうため、千葉県漁業協同組合連合会が自走式潜水トラクターによる回収システムを導入しました。平成19年のアオサの推定最大発生量は7月の815トン（湿重量）で調査を開始した平成16年以降で最も少ない結果でした。

また、アオサ対策に関する事例収集等を行い、有効利用を含めた処理方法の確立を目指しています。



アオサ回収装置

4 藻場造成について

現在の三番瀬ではアマモの越夏は困難と推定されますが、一部の海域ではアマモの生育に適した箇所も確認されましたので、漁業者と連携してモニタリング調査を行いながら藻場造成を試行しています。

これまでの結果では、秋季に移植すれば、翌年の春～初夏までは群落が形成され、魚類やベントスも蛸集しますが、夏季～秋季には造成アマモは全て枯死しました。この原因は、アオサの堆積、高水温、波浪等と考えられました。

また、アマモの株と種子の確保や生態観察を目的に陸上水槽での育成試験を行っており、平成17年11月に移植したアマモ682株は平成20年2月には4千株を超え、栄養株の増加は比較的順調に推移しているため、アマモの人工栽培技術はある程度目標を達成したと考えられます。

5 アサリ漁業について

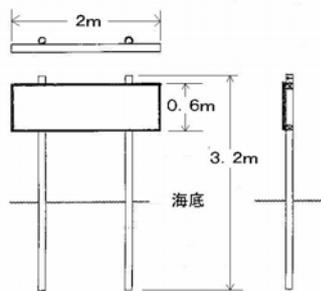
三番瀬では、アサリ資源の減少傾向が続いており、早急な資源の維持・増大策の実行が求められています。このため、アサリ資源変動要因の解明や、アサリの冬季減耗対策を進めています。

(1) 平成19年度アサリ資源調査結果

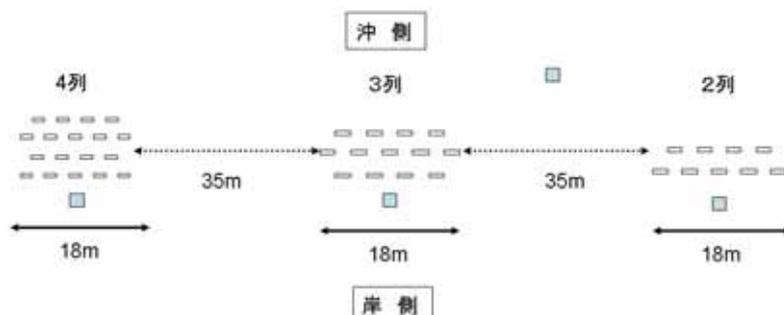
6月からアサリ稚貝の発生により分布密度が増加し、平均で186個/m²となり、8月には378個/m²に増加しました。しかし、9月の江戸川出水による影響で10月には287個/m²に減少しました。12月には分布密度は96個/m²に減少し、2月になると44個/m²（過去3ヶ年は20～29個/m²）となりました。

(2) 冬季の減耗対策

漁業者が設置・撤去可能な簡易構造物（FRP製消波パネル）を使用して、波浪を効率的に抑制する配列の検討を行いました。



FRP パネル設置例



地盤高さ:0.2~0.3m程度
 満潮時平均水深約1.5m
 パネル設置高さ(海底~パネル下部):1m
 パネル向き:南南東(砂連と垂直方向)
 □ 波高計、流速計設置場所

パネル設置概要

(3) アサリ密漁対策

近年、漁業者以外の方が漁業権漁場内でアサリを採捕する者が増えています。

また、禁止されている殻長 2.7cm 以下のアサリを採捕することは、漁業秩序に大きな支障を来すとともに、水産資源へ悪影響を及ぼすこととなります。

そこで、チラシ、広報、たて看板の設置による漁業権漁場や制度の周知・指導を徹底し、漁業者の適切な漁場管理に対する支援を行うとともに、悪質な違反者に対する取締りの強化に努めています。

6 ノリ養殖業について

三番瀬におけるノリ養殖は、漁場環境が不安定で、疾病による生産阻害が著しいなど、厳しい生産状況に置かれており、早急な生産安定対策が必要となっています。このため、近年の高水温に耐性を持つノリ品種改良、養殖管理技術の向上、陸上採苗施設の充実等を進めています。

平成19年度のノリの品種改良は、高水温下での室内培養により選抜育種試験を継続するとともに、優良形質の確認のため、選抜した優良株3系統の野外養殖試験を実施しました。その結果、対象系統に比べ、生長や障害の程度が良好で、食味も遜色ない評価でした。